

新たにできた 水辺の紹介

(株)東芝京浜事業所

東芝グループでは生物多様性の取り組みとして、製品・工場、サプライチェーン、社会貢献の4本柱でそれぞれの活動を展開しています。そのうち工場の取り組みでは、工場を基点とした地域連携による生態系ネットワークの構築を目指し、グループ内全拠点でビオトープの整備を進めています。当京浜事業所でも所内ビオトープでの希少種の保護や、海芝公園を含む緑地整備などのエコアッパを推進してきましたが、この度JR鶴見線新芝浦駅前に新たな緑の拠点を構築しました。

14年2月に完成した1号館の周辺緑地では、Eco Townscape(自然環境・景観に配慮した緑豊かな地域共生エリア)をコンセプトとし、潜在自然植生に基づいた郷土樹種を選定すると共に、花や実のなる種類を選び、季節感の演出と野鳥やチョウを呼び込む環境の創出に努めています。また、整備した緑地の一部を憩いの場として地域に提供すべく、新芝浦駅前のセキユリテイルラインの外側にビオトープ広場を開放しました。ハギやトベラなどの花をつけるものやアキグミなどの実をつけるもの、ドウダ



ンツジなどの紅葉するものなど、季節ごとに楽しめる植物を植えています。さらに、雨水を利用した野鳥の水場や、巣箱など小動物の棲家を設置したほか、休憩用ベンチや観察デッキ、植物ネームプレートを設置など、自然に親しむための工夫も織り込みました。今後時間経過と共に植物がにぎやかになっていき、地域の方々にも利用いただける心休まる空間となっていくことを期待しています。

このような生物多様性に貢献できる外構など最新の環境技術を織り込んだ1号館は、建物の環境性能を格付けする制度(CABEE横浜認証制度)で最高位の評価「Sランク」の認証を受けました。この結果を励みに、私たち株式会社東芝京浜事業所は今後もさらに地域の生物多様性に貢献して参ります。

北部第二水再生センター

京浜地区に新しい ビオトープが 完成しました!!

末広地区地域緑のまちづくり協議会が策定した地域緑化計画書に基づき、平成25年度、北部第二水再生センター水処理施設内の未利用地に新しいビオトープが完成しました。ビオトープには、生物多様性に配慮し、ノハナショウブ、ヒツジグサ、マツモなどの水生植物やハンノキ、ネムノキ、イヌビワなど、多様な樹木を植栽しています。

また、25年度をもつて閉館された東京ガス(株)環境エネルギー館の屋上ビオトープから救出されたヤゴを放流し、さらなるトンボネットワーク形成が期待されます。残念ながら、普段は立入ることはできませんが、施設見学のコースとして、多くの方々に楽しんでいただけるように、地域の環境財産として活用していきます。



貨物線の森

親子DE貨物線の森 トンボ池づくり ワークショップ

トンボ池づくりの様子



貨物線跡地が緑道に生まれ変わり小さいけれど森になってきて、「次は緑と生きものがにぎわうトンボ池でしょう」と森のお世話をする人たちから声が上がります、2月11日から3月8日まで5回連続のトンボ池づくりワークショップを開催しました。講師は「トンボはドコまで飛ぶかフォーラム」の島村さん。【多様な生物が暮すためには森と池はセットで】が実現するのです。この夏トンボが飛び交い、産卵し、ヤゴが育ちますように。参加者は季節的に多くは望めない中で延べ31名、小学生とその家族の参加があり、賑やかで楽しい体験学習でした。主催は横浜市のみどり税を使って京浜臨海部をみどりアップするために企業と市民団体で作った「生麦新子安地区みどりのまちづくり協議会」で、貨物線の森緑道公園愛護会が事務局をしています。



現地見学

- 第1回 現地見学とキリンビアレッジ、JFEトンボみち、入船公園の見学。
- 第2回 池に入れるために環境エネルギー館のヤゴを捕獲予定でしたが雪のため中止。
- 第3回 JFEトンボみちでかいぼり見学をして管理計画を学ぶ。池の設計図の話し合い。
- 第4回 現地での作業。計画地の整地、緑陰と日当たりの関係や雨水の排水溝の位置を確認して、水面の高低差をつけるため地盤に段差をつけるよう、土を運びます。
- 第5回 現地での作業。2基のビニール製のプールを配置し、池の周囲と池の中に入れて土手を作り、水草を植えるための土の搬入。

入船公園

入船公園に 多くのトンボを 呼ぼう！

入船公園には、シオカラトンボ・ギンヤンマ・ウスバキトンボなど、たくさんさんのトンボが生息しています。

特に、野草を残して管理している、草原ビオトープエリアには多くのトンボがやってくる、休んでは、また水辺を求めてどこかへ飛んでいきます。それを繰り返しているようです。

残念ながら、入船公園に水辺はありませんでした。（以前、噴水がありました、閉鎖している状況でした。）トンボはドコまで飛ぶかフォーラムの活動を通して、京浜地区のトンボの調査に

参加し、「公園に、もっと多くのトンボが集まり、産卵できるような、水辺を作りたい」と思いました。

最初は小さなパレットトンボ池から始まり、現在は、水景跡地全体に土を入れ、水草を植栽し、徐々に、エリアを拡大しております。おかげさまで、ギンヤンマや、シオカラトンボ等のヤゴの生息も定着してきました。

今後は、更に豊かなトンボ池を目指して、管理していきたいと思っています。

